

インターネットを活用した「子育てシェア」

～ 共助社会を実現するしくみづくりに誰もが参画する時代が来た!～

AsMama 代表取締役CEO 甲田恵子

インターネットの仲介サイトを通じてベビーシッターに預けられた2歳男児の死亡事件は、なぜ大事な子どもを見ず知らずの人に預けたのかと社会に大きな波紋を投げかけ、現在の子育てを支えるしくみが実態に追いつかないという、保育制度の問題点を改めて明らかにしたといえます。ひと・まち社が、一昨年、子育て支援に携わる専門職などの支援者を対象に行った「子育て力を豊かにするための支援の実態調査」からは「地域子育て支援拠点事業」やNPO、子育て当事者の活動は増えていますが、量もしくみも十分ではなく、身近に頼りになる人やしくみに出会うことはなかなか難しい現状が分かりました。今回の特集記事では、制度に頼らず、つながりあい、助けあうしくみを自分たちで創りだそうとインターネットを活用した「AsMama」の活動を紹介しします。

■必要なしくみを自分でつくる

「誰もが育児も仕事もやりたいことも思い通りにかなえられる社会を自分たち自身の手で作ろう」、そんな思いに共感する人々を全国から集い、事業として取り組んでいるのがAsMamaです。



甲田恵子 CEO

支援したい人と支援して欲しい人が安心して気兼ねなく出会い、頼り合える社会になれば、双方のやりたいことが実現出来、それぞれが今以上に豊かな生活が出来る社会になるのではないかと、AsMama 創業者であり代表現任を務める甲田恵子がある日ネットで発信したところ、本人すら驚くほど次から次へと共感者が集ってきたことに、絶対的な社会ニーズを確信したことに始まります。昔は当たり前にあったご近所同士の頼り合いも、今や地域コミュニティは希薄化し、8割が核家族。子育ては夫婦だけが抱え込み、孤軍奮闘している時代です。そして子育てを夫婦だけで抱え込まざるをえない環境こそが、女性の離職や世帯所得の低下、男性の長時間労働、職場鬱、児童虐待、少子化、子どもや若者の孤独感や将来不安など様々な社会問題へと繋がっています。行政も地域団体も企業もこの状況を打破しようとあの手この手と対策を図ってはいますが、肝心な市民一人ひとりこそが、もはや他力本願で社会が変わるのを待っている時代ではないことを自覚し、主体的に何が出来るのかを考え、行動する時代が来たのです。自分たちで自分たちの生活や子どもたちの未来を変えていくのは、今を生きる私たち一人ひとりです。だから、2009年11月、AsMamaを起業しました。ちなみに、AsMamaの社名には英語の「As(～のように/～として)」を用い、「ママとしてパパとしてイキイキ生きられ

る社会を、ママのようにパパのようになりたいと子どもたちが大人たちを見て思える社会を自分たちで創っていかうと思う人たちの集合体でありたい」という思いが込められています。

■つながり合い、頼り合うしくみづくり

どうすれば社会が変わるのか、どうすれば支援したい人と支援して欲しい人が頼り合えるようになるのか、どうすれば持続可能な事業活動が出来るのか、創業当初から具体的な解決策やビジネスとしての勝算があったわけではありません。それでも、多くの人が渾身の思いで寄せてきた「子育てを安心して頼れる人が欲しい」、「子育てをしながらでも地域や社会の役に立ちたい」という声に背中を押され、使命感と無限大の可能性を信じて動き始めました。そもそも、24時間待ったなしの子育てで、いつ助けが必要となるかもしれないのに、「近所に頼れる人なんていない」という人が少なくないのが現代社会です。だからといって助けてほしい時になって大事な子どもを顔も知らない人に預けるなんていうのは、親にとっても子どもにとっても不安且つ危険です。そこでAsMamaでは、支援してほしい親子と支援したい人がリアルに顔を合わせて知り合い、交流する機会を全国各地で創ることから始めました。創業当初は参加者から参加費用を徴収する形で開催していましたが、経済的不安を抱える子育て世帯ほど孤立して奮闘しがちなことがわかるようになると、



「ママサポーター」交流イベント

それからは子育て世帯からは費用をとらないビジネスモデルで運営することを心に決めました。今は年間数百万人の子育て世帯にアプローチし対話できる訴求力を活かし、企業の広報やマーケティング、集客や顧客化に役立つことで、活動資金と企業ブランドを企業から得る一方、経済的にも精神的にも負担なく子育て世帯が集える地域交流の機会創りを行っています。

そして、一方で、いざ支援が必要な時には、安心して気兼ねなく都合がつく知人・友人を出来るだけすぐに見つけられるための手段としてネットを活用しています。とはいえ、創業当初に有していたネットの仕組みは会員制SNSのようなもので、当社サイトを使う優位性もなかったため、地域交流の場創りを通じて「子育ては一人で抱え込まず、信頼できるご近所同士で頼り合う方が、親にとっても子どもにとってもずっと豊かな暮らしに繋がる」と、啓発的なことしかできませんでした。

丸3年、年間何千、何万という親子の交流の機会創りを重ねながら、顔見知り同士が有償で頼り合う仕組みそのものに適用する保険の引受会社と出会い、社会の声をカタチにしてくれる、探し求めていたシステム開発会社と出会え、ようやく2013年4月にローンチできた仕組みが「子育てシェア」です。

(注:IT用語で新商品や新サービスの公開という意味)

■ワンコインで頼り合う「子育てシェア」

子育てシェアは、顔見知り同士が1時間500円～700円の謝金で子どもの送迎や託児を頼り合えるネットの仕組みです。パソコンやスマホから簡単に登録でき、知り合いに声を掛けながらリアルな繋がりを子育てシェア内に同期させていき、いざ支援を依頼したい時には、依頼内容を入力して、子育てシェア内で繋がる個人または複数の候補者を選んで発信すれば、都合がつく人が支援に立候補してくれるようになっています。誰を選んで支援依頼を発信したかや、立候補した人の中で誰が選ばれたのかはわからないようになっていますし、支援者が一定時間見つからない場合や緊急依頼時には、AsMamaで本人確認や託児研修を受講した「ママサポーター」と呼ばれるス



安心と気兼ねいらずの助けあい

タッフが支援者として立候補します。ママサポーターと面識がない場合は、ママサポーターの方から面談等で個別に交流する機会を提案します。つまり、子育てシェアを利用すれば、依頼する側もされる側も知り合いだからこそ安心して、気兼ね不要な謝金を介しての頼り合いができるのです。登録料や手数料は一切無料で、依頼者が支援終了後に直接、支援してくれた人に1時間ワンコインのお礼を払うだけですが、上述のとおり、この仕組みには日本初、万一の事故時には全支援者に最高5,000万円の賠償責任保険が適用されています。また、謝金のやり取りに気を遣うのであれば、クレジットカードを使ってキャッシュレスで謝礼を支払うことも、これまた日本で初めて実現しました。保険料やクレジットカード利用時の決済手数料はAsMamaが負担しています。まさに、昔ながらのご近所同士の頼り合いを、今の時代ゆえの不安や課題を考慮して、経済的にも精神的にも負担をなく仕組み化したものが『子育てシェア』です。最近では、この子育てシェアを自社従業員に積極的に活用促進することで女性の就労支援を促したいと思う企業や派遣会社と協業したり、入居者同士の共助を実現することを付加価値としたいマンションディベロッパーや、送迎を保護者同士で共助することで施設側の優位性としたい幼保や習い事との協業も進んでいます。こうした企業との協業によって、地域交流事業同様、AsMamaは企業から活動資金を得ると同時に、顔見知り同士が頼り合える仕組みの普及を加速化しています。

「顔が見えるから安心」「ネットだから気兼ね要らず」という共助社会を実現する仕組みは、単に子育てしやすい社会づくりに留まらず、1人ひとりの自己実現を前提とした様々な社会課題解決と豊かな未来に繋がります。本記事を拝読頂いている方が子育て中の方であれば勿論、子育て中でない方であっても周囲との共生の一助としてAsMamaの取り組みを知り、子育てシェアを周囲の方と活用頂ければ幸甚です。私たちの今が、子どもたちの未来が、可能性と豊かさにあふれる社会であるために、今を生きる大人たち1人ひとりが身近な人に声掛けあい頼り合おうとすることに主体的であることを願っています。



集団保育

1才児保育

